

「会員短信 38」

「感謝」 南とんぼ

やっときた！ 玄関で息子の声がします。手には横浜市からワクチン接種券。四月末のことでした。情報は直ちに身内のグループラインに、写真付きで配信されました。

「おおー！ 意外に早かったねー」

「なかなか予約が取れないらしいよ。みんなで協力して取ってあげようよ」

「よっしゃー！ こっちはパソコンとスマホ四つ。子どもたちにもやらせるわ」

息子と孫と娘二人、それぞれの夫も加えてたちまちワンチームが出来上がりました。一丸となって熱くなる彼等を見ながら、私自身は、そんなに急がなくても…。動きまわる若者を先に打った方が…等とっていました。

また、市内のたくさんの家庭で同様の事が始まっていて、みんなが一斉にメールや電話をしたら大変なことになるのではないかと、とも思っていました。案の定、市の受け入れサーバーは僅か四十五分でパンクしてしまい、二回目のがんばりでようやく予約が出来、接種もなんとか早く受けることができたのでした。

今振り返ってみると、コロナ禍の中、鬱にもならず、元気に過ごさせていただけなのは、身近にいた家族のお陰でした。そして、もう一つが、滑稽俳句でした。それらに改めて感謝、感謝です。

娘等の燃えて五月の予約かな

秋風よ普通の暮らし連れて来い